

学校法人五島育英会 学校評価（自己評価）制度

2021年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	細川 秀夫

重点目標Ⅰ 良質な教育の実践					
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
社会の変化、保護者ニーズに応えるスポーツ分野、芸術分野の新規課外活動導入（2022年度予定）に向けての研究をスタートする。 ・導入する課外活動の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ分野ではサッカー、芸術分野では器楽、リトミック、絵画等を想定している。 ・都内の他園実施状況、特に特色ある教育を実践している世田谷区、川崎市の幼稚園に焦点を合わせ、課外活動内容、受益者負担額、環境整備の課題、募集定員充足状況等、多面的に調査する。 ・この導入により本園の教育活動は課題あそび、自由あそび、課外あそびの三本の柱になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度開始の課外教室が決定したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教室として「サッカーあそび」「ミュージカルあそび」の開講が決定した。 ・前者は東急スポーツシステムのコーチ、後者は元宝塚歌劇団所属の講師が担当し、対象は年中長の園児 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教室の検証 	
本園の教育目標である「豊かな心とたくましい体」の実現に向けて体づくり教育を推進する。 ・体づくり教育プログラムの研究及び編成 ・歯ブラシ教室の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年少、年中、年長の発達段階に合わせた年間の「体づくり教育プログラム」を編成する。 ・正課の中への運動教室設置も検討する。合わせてこのプログラムによる年長児の運動能力向上の数値化も研究する。 ・体づくりに相応しい運動器具・運動備品を整備する。 ・また、幼児期に置ける歯の健康は、体づくりの大きな要素の一つである。年長全体の虫歯の割 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の「体づくり教育プログラム」が作成できたか。 ・「正課運動教室」の実施可否の結論がでたか。 ・虫歯予防を含めて口腔衛生の教育ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の体育6領域との関係性を考慮して「二子幼稚園運動カリキュラム」を作成した。 ・正課運動教室を4月より開始した。（年少のみ5月） ・年長の虫歯の割合は 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力向上の検証と定量化 ・歯の健康指導の継続実 	

	<p>合 12%以下（5歳児の国の虫歯の割合 31%）を目標に口腔衛生の啓発指導、歯ブラシ教室を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会の設置及び年間保健計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児の虫歯の割合の統計化ができたか。 学校保健委員会を開催できたか。 	<p>昨年と同数値の 14.3%、未処置歯のある園児はいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 園医（歯科）による歯ブラシ教室を全学年で実施した。写真・模型を使用し、園児も歯磨きの大切さを理解していた。 年間保健計画を作成した。また、学校保健委員会を開催し、保護者目線からの施設安全点検を行った。 	<p>施、年少中の虫歯調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児の健康の保持増進を図る学校保健委員会の開催
--	--	--	---	---

重点課題② サポート体制の充実				自己評価
				A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>預かり保育に対する保護者ニーズは非常に高く、そのニーズに応える。（コロナの影響の少なかつた 2019 年度は延利用者 3,200 人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 水曜日の預かり保育実施 長期休業中の預かり保育日数 <ol style="list-style-type: none"> ①春期 7日 ②夏期 15日 ③冬期 7日 	<ul style="list-style-type: none"> 平常保育の月・火・木・金曜日の正課後の預かり保育に加えて、水曜日の弁当持参の預かり保育を年長対象に実施する。 また、長期休業中の預かり保育を春期 7日、夏期 15日、冬期 7日に拡充する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、安全な預かり保育が実施できたか。 長期休業中の春期 7日、夏期 15日、冬期 7日の預かり保育を実施できたか。 2019 年度延利用者数の 80%の利用者があったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大を防ぐため、少人数でも 3部屋を使い、年少・年中・年長を分けた預かり保育を実施した。 春期 9日、夏期 15日、冬期 6日の実施で、トータルで目標を満たした。 預かり保育の利用率は、オミクロン株の 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中前の午前保育期間での預かり保育実施

			影響が大きく、62.6%に留まった。	
重点課題③ 教職員の人材育成・資質向上				自己評価 A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
幼稚園と保育園の大きな違いの一つに教育の研究と修養の充実の差がある。良質の教育を提供するためには、教員の不断の研修が必要である。 ・外部研修参加延人数 60 人 ・塩尻高校、附属中高、等々力中高視察研修の実施	・東京都私立幼稚園協会夏季研修、世田谷区研究発表会を悉皆参加とし、参加者数を延 60 人まで増やし、教員の意識改革を進める。 ・塩尻高校、附属中高、等々力中高への視察研修各 2 名を派遣し、都市大グループ職員としての意識向上を図る。	・オンライン研修を含めて、延 60 人の参加があったか。 ・塩尻高校、附属中高、等々力中高への各 2 名の視察研修ができたか。	・外部研修参加者数は延 45 人であった。 ・感染拡大状況を鑑み視察研修はすべて中止した。	・外部の体験型研修への参加は感染拡大状況を見て判断する。
重点課題④－1 ICT を利用した教育計画				自己評価 S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
ICT 化社会の急激な進展は、小中高の学習活動に大きな変化をもたらしている。幼稚園でも ICT 機器を活用した新しい幼児教育の開発・実践が求められている。 ・ICT を活用した新しい「課題あそび」の研究開発 ・無線 LAN の設置・補強	・園内の無線 LAN 化のための Wi-Fi 機器を整備する。これによって、遊戯室で行う誕生会等活動の幅を広げることやリモートによる保育参観を追求する。 ・併行してタブレットと大型提示装置を使った疑似体験活動や発表会等、ICT を活用した新しい「課題あそび」の研究開発を教務部中心に進める。	・園内無線 LAN の整備ができたか。 ・園内無線 LAN を活用した教育・保育活動ができたか。 ・ICT を活用した新しい課題あそびの課題が明確になったか。	・無線 LAN 整備が完了し、運動会・子どもの発表会のライブ配信を実現した。 ・ICT 教育の実施年度を前倒し、2022 度からスマートエデュケーションの「KitS」を開始する。	・ライブ配信の拡充とオンラインによる個人面談実施 ・「KitS」の教育プログラムの習得
重点課題④－2 国際化計画				自己評価 A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
社会の国際化の進展を受けて、幼児教室では英語学習が幼児教育の一つの柱となっている。こ	・ネイティブ教員の画像と音声流れるサイバードリームによる英語活動を毎日 10 分間、年少から年長まで継続実施する。英語の音声への耳慣	・毎日 10 分間の英語活動が実施できたか。 ・サイバードリームの	・感染防止のための午前保育期間等があったが、ほぼ毎日実	・英語活動のまとめとしての年長児発表会の実施

<p>のような状況を踏まえ、本園は国際化教育の中心にサイバードリームによる英語活動を置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> サイバードリームの継続実施 サイバードリームの外国人講師による英語活動及び教員研修の実施 	<p>れを通して、正しい発音の基礎を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、2学期にサイバードリームの外国人講師による英語活動及び教員研修を実施する。 	<p>外国人講師による英語活動及び教員研修を実施できたか。</p>	<p>施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人講師による英語活動を全クラスで実施した。 教員研修を通してサイバードリームの活用スキルを高めた。(1, 3学期) 	
--	--	-----------------------------------	--	--

重点目標Ⅱ グループ間連携の深化・拡大

重点課題 各学校の連携強化

自己評価 | -

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>都市大グループ校との連携は本園の重要施策の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市大人間科学部の Problem-based Learning (PBL) の授業科目に対応するために、都市大2年生のサポーターを受け入れる。 等々力中高ネイティブ教員による年長対象英語活動の実施 付属小または付属中高ネイティブ教員による年中対象英語活動の実施 内部進学制度付属小学校説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 園行事を中心として年間学生サポーター100人枠を確保する。 等々力中高ネイティブ教員による年長対象英語活動の各学期1回の実施、付属小または付属中高ネイティブ教員による年中対象英語活動実施のための条件整備を進める。 6月の内部進学制度説明会で付属小学校の特色ある教育活動の説明時間を設ける。終了後スマホを活用したアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、安全なグループ間連携行事ができたか。 付属小学校の特色、内部進学制度の理解が深まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生サポーターは、感染拡大が沈静化していた11月～1月のみの実施で参加数は延べ12人となった。 等々力中高ネイティブ教員による英語活動は中止とした。同校の理科部の科学体験教室は年長対象のみ実施した。 付属小学校説明会に28家庭の参加があり、特色と考査の観点の理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での学校間連携の安全な実施

重点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実					
重点課題 学習環境の整備・充実				自己評価	S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>安心、安全、清潔な保育・教育環境が子どもの健やかな成長を支える基盤である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児用トイレ温暖便座化 ・園庭を見守るカメラの設置 ・長机の購入（年長） ・鳥小屋の新規購入 ・お菓子の家のリニューアル ・園庭遊具のタイヤの塗り替え ・ブランコ遊具の椅子交換 ・砂場の上の遮光シートの設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場のトイレ利用の快適さを図るため、トイレを温暖便座にする。 ・園庭あそびのさらなる安全を図るため、園庭の活動を見守るカメラを設置する。 ・子どもの作品を置く長机が老朽化しているため、年長の長机を新規購入する。 ・老朽化している鳥小屋を新規購入し、衛生・安全面の向上を図る。 ・再塗装により、お菓子の家の明るさを取り戻し、園児の心を一層弾んだものにする。 ・滑りやすくなっているタイヤの再塗装により、園児が安全に跳べるものにする。 ・ブランコ遊具の椅子を軟らかい強化樹脂に替えることにより、安全面の向上を図る。 ・遮光シートの設置により、熱中症及び紫外線による健康被害を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り整備されたか。 ・安全な園庭あそびが行われたか。 ・安全に飼育活動ができたか。 ・多くの園児がお菓子の家で遊んだか。 ・安全に跳んでいたか。 ・ブランコでの怪我がなかったか。 ・砂場遊びで熱中症の園児がいなかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの温暖便座化、カメラの設置、長机・鳥小屋の新規購入、お菓子の家の補修、タイヤの再塗装、ブランコの椅子交換及び遮光シートの設置等、すべて完了した。 ・園庭での事故がなく、明るい園児の声が響きわたっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も中期事業計画どおり、着実に安全対策を進める。 	
重点課題 効率的業務の推進				自己評価	A
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等	
<p>2019年度に導入した園業支援システムパステルによって、教員の事務作業の効率化は著しく進んだ。今後もICT化を加速させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パステル研修会実施 ・パソコン研修会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・パステルに係る研修会を各学期1回開催し、操作能力の向上及び条件設定担当教員の育成を通し、更なる効率化を目指す。 ・また、教員のパソコン技能、特にエクセル、ワード等のスキル向上を図る研修会を月1回の職員会議に合わせて行う。講師は本園の教職員を予定する。また、ネットワークやセキュリティの研修については法人職員を予定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会を計画通り実施できたか。 ・パステル管理者の育成ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エクセル、ワード等のスキル向上研修会を計9回実施した。最終回のセキュリティ研修はコロナのため実施できなかった。 ・パステルの預かり保育申し込み機能等 	<ul style="list-style-type: none"> ・パステルによる業務改善の一層の推進 	

			の担当教員を定めた。	
募集広報活動				自己評価
				B
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>区内 59 園の全体入園手続者数は昨年より 264 人減少の 2,625 人で、2 年連続の大幅な減である。</p> <p>本年度も定員確保は必須である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、安心安全な保育見学会・説明会を実施する。 ・本園の魅力・特長がより分かりやすく発信できる広報活動を実施する。 ・夏期説明会参加家庭数、150 を目標とする。 ・志願者数 110 人を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月に定員上限 35～40 家庭とする説明会を 6 回開催する。 ・スマホからの見易さを追求するなどホームページを刷新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会参加数、志願者数の目標数値が達成できたか。 ・ホームページのリニューアルができたか。 	<p>夏期説明会参加家庭数 142 家庭、追加の 10 月説明会が 30 家庭、計 172 家庭であった。</p> <p>11 月 1 日の志願者数は昨年度比 -15 名と大きく減らした。</p> <p>本園の魅力が分かりやすく伝わるホームページに一新した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の就園児数の減少が顕著な状況での安定的な定員の確保
その他学校目標				
学校課題① 安心・安全な幼稚園				自己評価
				S
本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>本園の感染防止対策に基づき、着実な感染防止、衛生管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止の徹底 ・防災・防犯・園内事故防止等の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・遊具チェック表及び保育安全指導チェック表等を用いた定期点検を行う。 ・怪我の月別統計等を活用し、怪我の防止を図る。 ・AED 研修等、緊急時対応訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染を防ぐことができたか。 ・怪我が減少したか。 ・緊急時の対応が身に付いたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン株の感染で、延 17 名の感染者を世田谷区、保健所に報告した。殆どが園外感染で、園内の感染拡大は防ぐことができた。 ・怪我の件数は、この 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の感染防止

			4年間で最少の21件であった。 ・熱性痙攣やアナフィラキシーショック発生時の対応訓練を行った。	
--	--	--	--	--

学校課題② 「あそびによる学び」のさらなる充実				自己評価	A
-------------------------	--	--	--	------	---

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
<p>本園の教育の特長は「課題あそびと自由あそび」「食育」「本物に触れる教育」「多文化教育」である。</p> <p>・コロナ禍の中、本園の特長の教育活動を維持する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事予定をコロナ感染拡大の状況を勘案しながら月別行事予定で確定する。 ・三人行事「運動会・発表会・音楽会」を保護者参観で行なう。 ・文科省の「学校の新しい生活様式」に依拠し、安心・安全な教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事が円滑に実施できたか。 ・子どもの成長を実感してもらえたか。 ・本園の特長の教育活動が維持できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別の夕涼み会、誕生会、運動会参観、発表会のクラス別参観等、安全最優先で行事を実施した。 ・子どもの成長がはっきり分かる三人行事の一つの音楽会は、感染拡大のため、保護者の参観を中止とした。 ・課題あそびはほぼ予定通り実施、行事は親子で遊ぶ日、年中小の凧揚げを中止したが、9割の行事は実施した。 	コロナ禍での行事の在り方

学校課題③ 幼稚園と保護者との意思疎通の深化と協働による教育活動の実現				自己評価	A
-------------------------------------	--	--	--	------	---

本年度の施策内容（達成目標）	具体的な取り組み内容	評価の観点	達成状況	課題・改善方法等
よりよい教育を実現するためには学校と保護者との連携・協力	・アプリ「てのりの」を使った保育参観を含め、参観の機会を多く設ける。	・十分な保育参観ができたか。	・定例の保育参観は中止し、アプリ「ての	・積極的な協力を希望する保護者への参加機会

<p>が必要不可欠である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との意思疎通の深化を図る。 ・「父母の会」との連携・協力を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の心に寄り添う丁寧な面談を実施する。 ・園だより、学年だより、保護者会等で、行事の詳細や園の考え方を丁寧に説明する。 ・三人行事の衣装づくり等を含めて、行事への協力機会を設ける。 ・卒園児満足度調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談で意思疎通が図れたか。 ・保護者の協力が得られたか。 ・総合満足度の「満足」が 90%以上占めたか。 	<p>りの」での参観に切り替えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、副担任と保護者との個人面談を通して、意思の疎通を図った。 ・コロナ禍での教育活動方針及び感染発生時の対応等、丁寧かつ迅速な情報提供を行った。 ・運動会、発表会の衣装作り等で多くの保護者から協力を得た。 ・総合満足度の「満足」は 82.0%であった（昨年度 91.7%）。 	<p>の提供</p>
---	--	---	--	------------

<p>（園）長による総括</p>			
<p>総括評価は、各重点課題評価を総合的に判断し、Sとした。総括は以下の通りである。</p> <p>第2期事業計画（2021年度～2025年度）達成のための重要なスタート年度であったが、デルタ株、オミクロン株による急激な新型コロナウイルス感染症の拡大があり、重点課題に向けてのアプローチより、園内の感染防止と教育・保育活動の維持の両方を実現するために教職員の多くの力を注入せざるを得ず、物理的、精神的にも厳しい状況が続いた。そのような中でも今年度の重点課題施策内容（達成目標）を達成すべく、教職員が力を結集して取り組んだことは高く評価できる。1年間の教育・保育活動を明瞭にするため、以下の1～10の項目に沿って総括する。</p> <p>1 実施した主な感染防止対策</p> <p>①登園前の体温のスマホ入力 ②登園時のサーモカメラによる体温測定及び園長による園児の掌へのアルコールスプレー ③ペーパータオルの整備（トイレ・手洗い場） ④園児全員マスク着用 ⑤各保育室に加湿・空気洗浄機（プラズマクラスター）、換気用サーキュレーターを設置、昼食時及び制作活動時のパーテーション活用 ⑥園児降園後の各保育室・遊戯室等の消毒の徹底（机・椅子・おもちゃ等・床・ドア・手摺・園庭遊具・トイレ等）、各保育室は次亜塩素酸水噴</p>	<table border="1"> <tr> <td style="padding: 5px;">総合 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">S</td> </tr> </table>	総合 評価	S
総合 評価			
S			

霧による消毒、遊戯室はジアイーノを稼働 ⑦行事等（夕涼み会、運動会、誕生会、発表会、保護者会、園庭あそび、預かり保育等）はクラス、学年ごとに実施 ⑧保育室内の保護者立入禁止 ⑨時差登降園及び園庭での降園（年中長）

2 感染状況

1月23日に最初の陽性者が判明し、以降3月19日までの期間に園児、教員合わせて17名の陽性者が発生した。これに伴い臨時休園1回、学年閉鎖1回、学級閉鎖4回の対応を取った。この間、世田谷区子ども育成支援課と緊密な連絡を取り、保護者に対して、陽性者発生、濃厚接触者特定調査の有無・調査結果及び園の対応をその都度速やかに文書で発出した。（発出文書は33通）

3 教育活動

(1) コロナ禍での教育活動の維持

- ・年間を通して、感染者が出た場合、他の学年に感染が広がらないように、儀式、保護者会、園庭遊び、誕生会等、学年が変わらない工夫をして教育活動を展開した。そのため、一度で済むところが複数回になったり園庭の自由あそびの時間が縮小したりした。
- ・昨年度中止した春の遠足、夕涼み会、歩き遠足を実施した。春の遠足は都市大グラウンドでの代替活動、夕涼み会は学年毎の3部制、歩き遠足は現地での昼食時の子どもの配置等の工夫をして実施した。園内・外活動はすべてマスク着用で実施した（夏期の園庭あそび除く）。
- ・子どもの成長がはっきりわかる行事として位置付けている三大行事の内の運動会・発表会は、保護者の参観を学年別・クラス別とした。音楽会は中止し、参観のない音楽活動として実施した。また、定期の保育参観はアプリ「てのりの」による動画配信に変更した。このように感染防止のために様々な場面で、保護者の園内立ち入りを制限するなど、保護者の思いに寄り添うような教育・保育を十分に実施できなかったことは悔しさが残る。ただ、昨年は子ども1名に対し保護者1名の参列であった卒園式をクラス別卒園式に変更し、ご両親にお子様の成長の姿をご覧いただけたことは、保護者の願いに沿えたと考えている。

(2) 国際教育

英語教材サイバードリームで、英語の歌以外の活動を行った。園児は毎日10分間の英語活動を楽しみにしていた。年中、年長では、英語の発音に耳慣れた様子があり、くだもの・国名・天気等の簡単な単語の発音は、画面上のネイティブの音声をよく真似て発声している。

(3) 健康な体づくり

1) 正課運動教室と水泳教室

- ・今年度導入した正課運動教室を全学年で実施した。専門のコーチによる体系的なプログラムにより、全学年で運動能力の向上が見られた。年中長では多くの子どもがブリッジや三点倒立ができるようになった。3学期はオミクロン株の感染急拡大のため中止となり、予定していた最終回の活動の保護者参観を取り止めた。
- ・二子玉川アトリオドゥーエでの年長水泳教室は全12回の内3回の実施に留まった。

2) 歯の健康

年長児の虫歯の罹患率は、14.3%で昨年度と同数値であった。未処置の園児がいなかったのは保護者の意識の高さである。校医（歯科）による歯ブラシ教室を全学年で実施した。今後も継続実施したい。

4 預かり保育

昨年度は10月からの開始であったが、今年度は年間を通して預かり保育を実施した。水曜日を除く平日の延べ利用人数は1,946人と前年比180%であったが、

コロナの影響が殆どなかった一昨年度と比較すると62.6%に留まった。陽性者が出た場合の感染拡大を防ぐために学年別の預かり保育とした。そのため、教員が常時3名必要となり、負担が大きくなった。また、保護者の就業の関係から実施日数の拡充を求める声があり、次年度はそれに応える教員体制をつくりたい。

5 分掌業務

(1) 事務部

補助金申請（東京都・世田谷区）については、該当事業の精査、申請書類等の提出等、遅滞なく正確に行った。また、卒園児の預かり金残金の年度末までの返金や預かり保育利用料の領収など正確に行った。用務員の園内衛生・清掃業務も徹底しており、教員と事務部の円滑な連携協力は特筆できる。

(2) 教務部、広報・保健・安全部、総務・管理部

運動プログラムの作成、次年度課外教室（サッカーあそび、ミュージカルあそび）の環境整備、ホームページのリニューアル、園庭遊具の安全点検、図書室の整理・蔵書点検等、各分掌が責任もって業務を遂行した。分掌導入3年目になり分掌業務が定着した。

6 教員の質向上と教員研修

外部研修参加者はコロナ禍のため延45人で目標に届かなかった一方、園内研修はエピペンの利用方法や熱性痙攣の対応訓練、PC研修、さらに幼稚園教育要領に基づいた教育・保育活動の振り返り研修を実施した。体験・参加型の研修を通して、教員間の意思疎通と保育・教育に関する知識の習得、スキルの向上を図ることができたのは、大きな収穫である。

7 グループの連携

都市大グループ、東急グループであるメリットをコロナ禍のため殆ど活かすことはできなかった。学生サポーター制度による行事への参加学生は100名の予定の所、7名に留まった。また、等々力中高との連携も理科部による年長対象の科学体験教室のみの実施となった。

8 教育環境の整備

(1) 施設・設備の安全

園庭や廊下の子どもの活動を見守るカメラの設置や園庭のお菓子の家の補修、タイヤの再塗装、ブランコの椅子交換等を実施した。また、学校保健委員会を新しく設置し、保護者目線からの施設安全点検を行った。

(2) 園内ICT化

園内の無線LANの整備が完了し、これにより運動会、子どもの発表会、学級懇談会のライブ配信が実現できた。また、アプリ「てのりの」を活用し、教育活動の様子を頻繁に家庭に届けられた。

9 保護者の満足度

昨年に引き続き卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が82.0%、やや満足が14.8%と高い数値であったが、満足の割合は9.7ポイント下がった。これは、3学期の臨時休園等で、計画した教育活動を提供できなかったことが要因と考え、数値的には、保護者の期待に応え、一定の評価を得られたと判断している。

10 定員充足と募集活動

2021年度末の在籍数は年長66、年中71、年少70名と定員に近い在籍数を確保できた。転勤等による年長児の退園があると年長の編入は実施しておらず、欠員の補充ができない。2022年度園児募集では69名が入園予定で、1名未充足である。世田谷区私立幼稚園協会（59園）の11月15日調査報告によると3歳児の入園

手続き数は昨年より240人少ない2,385人であり、5年間で807人減少している。また、2022年4月の予想在籍園児総数は昨年より660人少ない8,063人で、5年間で1,767人減少が見込まれ、文科省の在籍調査日5月1日の数値は8,000人を切る可能性がある。この傾向は今後も続くと予想され、募集活動の厳しさは一層増すと考える。定員確保に向けては特色ある教育と預かり保育の更なる充実を図るなど教育・保育の差別化が必要である。

11 備考

苦しいコロナ禍の1年間だったが、教職員は日々知恵を出し合い、子どもたちのために教育・保育活動の維持・向上に努めた。幼稚園教諭としての熱意・意識の高さを改めて感じた。

学校関係者評価

学校評議員 A

実施報告書は達成目標、具体的な取り組み、評価の観点、達成状況、課題・改善方法、評価と平行移動で記述されている。園長、教頭、統括主任、事務方からの重点目標・重点課題への取り組み状況の説明は、焦点を絞った明解なものでよく理解することができた。新型コロナウイルス感染症の対応では、園と行政の情報伝達、感染判明時の緊急対応、園から保護者への通知等、詳細な説明があったが、園の非常時対応は適切であったと考える。クラス別卒園式は、両親に参列してもらうために登園・式・降園の時間を工夫して実施したとの報告があった。園児の降園時刻を同一にするなど卒園式に相応しい完結であった。卒園式については地域社会も高く評価していたことを申し上げる。園運営上大切な補助金申請では、事務方が計画書作成において、行政機関と何度となく遣り取りを行い、教育環境整備に係る補助金を認めていただいたと、事務方の奮闘の様子の報告があった。また、預かり保育の拡充では、次年度実施日数増及びそれに対応するための教員体制を構築されたい。

学校評議員 B

はじめに1月中旬から貴園に降りかかった新型コロナウイルスの感染状況に対応した、園長先生をはじめ教職員全員の労力に感謝を申し上げます。かつてない状況になり、行政も混乱の中、正常な保育を維持し続けることは大変なことであり、想像だにしない。先生方のたゆまぬ努力と現場の力でこの状況を乗り切ったことは評価に値します。これらの経験をハンディとすることなく糧として今後の運営、危機回避などに役立てるようにしていただきたい。

この一年の取り組みと成果の報告があった。前述どおり、三学期は予想不可能な状況に見舞われたが、この一年は概ね工夫をこらし、また、保護者のご理解・ご協力もあり、行事や保育内容を目標どおりにできたようだ。ここ数年での大きな変化はICTの充実度であろう、当初はDVD等を使ったサイバードリームであり、やや受け身的な内容であったが、コロナ禍も相まって教員自らがタブレット操作して、その場に応じての実践を重ねているようだ。またWi-Fi環境等、インフラも整備された。これは新しい教育要領にも沿った内容であり、来年度以降はより充実するとの報告があった。多くの園ですでに実施しているので、今後も取り組んでいただきたい。来年度から新しい内容として、サッカーあそび、ミュージカルあそびを導入するとあった。これにより課題あそび・自由あそび・課外あそびという目に見えるような形での実践となる。幼児教育は連続的な活動が主な特徴であり、その具体化した内容が“あそびの姿”であるが、これが見えにくい。〇〇あそびとしてカテゴリ別にするにより、より一層の理解と取り組みが明確になるであろう、期待するところである。

保育の充実や成長の手応えを教員がどのように実感するかが、より重要な課題のひとつである。教員一人ひとりの生活経験の違いがこの仕事に少なからず影響するのは経験上、理解している。この差を埋めるのに、記録と共有が必要であろう。大昔は降園後の時間、掃除や教室内の作業時に午前中の様子やこどもの仕草な

ど、様々な話しが飛び交っており、結果として自分のクラス以外の子も知ることになり、共有となった。しかしここ 20 年ぐらいで、(仕事や保育などの)意識の変化で、多くを話すことなく共有しづらくなっている。その差を埋めるのに、教員の仕事にも ICT を積極的に導入し、日常的な振り返りや成長や保育内容の記録を入力することにより、こども一人一人への理解が深まり、より多角的な保育内容となるであろう。

園児募集の対策の報告があった。東京都は 2025 年から、世田谷区は実数として 2020 年 7 月から人口減少している。出生率・数はさらに 2019 年度から世田谷区は減少に転じており、これが新入園児の実数に反映される。このような状況下において、魅力ある選ばれる幼稚園になるために、貴園でも様々な取り組みをしている。前述どおりカリキュラムの充実をはかり、保護者とのコミュニケーションを容易や事務効率を高めるために園業支援システム、パステルの活用をはかるなど目に見えるような形で進めている。課題として預かり保育の充実をあげられた。現状、預かり保育時間帯は保育外的な要素があるため、カリキュラム上も薄い傾向にあるが、預ける保護者は預かり時間帯も保育としてみる傾向となってきた。貴園もその辺をにらんでの対策と言えよう。こどもの幼さ・経験不足を考慮し、内容についてはこども達や担任の負担感が増えないように吟味することが大切であろう。今後とも貴園の取り組みに期待します。

学校評議員 C

炎が燃える勢いで、前半 30 分をあっという間に語り終えた園長先生には思わず拍手でした。総合評価 S に値する達成状況、この異常な時代に流した汗と涙を思うと先生方には感謝に堪えません。そして締めくくりが「来年度の入園園児数が心配です」と。いえいえ、先生方の努力は必ず報われます。

【自己評価基準（重点課題・その他の学校独自の課題・総合評価 共通）】

S = 卓越した成果を上げた。 **S** = 目標を大きく上回る成果を上げた。 **A** = 目標を概ね達成した。

B = 一部成果はあったが、目標を達成していない。 **C** = 目標をはるかに下回る達成状況であった。